

各種団体等と市議会との意見交換会実施結果報告書

テーマ：地域の核としての高校のあり方、とらえ方

現状を把握した上で20年先を見据えた市政のあり方

開催日時	令和7年7月28日（月） 午後1時から午後2時45分
開催場所	枕崎高等学校
参加者数	18名

○意見交換会での意見・要望及びその回答

〈テーマ1：地域の核としての高校のあり方、とらえ方〉

番号	参加者の意見・要望	議会としての回答
①	地域活性化の一角を担う高校に対し、市民を代表する市議会議員の立場から望んでおられること。 ー以下、この質問の中で他にも意見交換した事ー 野球以外のスポーツも学べる教室を小中学生向けに開催すれば、スポーツ振興につながるのではないか。 高校生と高齢者との交流会を通して世代間の理解を深め、高校生の人間力育成につなげたい。	○枕崎高校の存在意義を地域内外にしっかり示すこと。 誇りある枕崎高校であるための努力を継続してほしい。 具体的には、公立校でありながら、野球大会で好成績を残す、あるいは文化面での書道部の活躍など、枕崎高校のすばらしい活躍を伸ばしていくことが、地域活性化につながる。 ○市営球場の活用は進んでいるが、他のスポーツにも目を向けることは重要。関係部局と連携して、多様なスポーツの紹介を検討したい。 ○全国的にも三世代交流は広がっており、地域の生きがいづくりや若者の成長につながる。今後、こうした取組をさらに推進していきたい。
②	市民を代表する市議会議員の立場より、未来を担う若者たちに何を支援していくのか。 また、若者たちは何を希望するのか。	○一旦枕崎を離れても、帰ってきて就職すると奨学金の返還補助制度があり、本市も若者に定住していただけるよう取り組んでいるが、せっかく帰っ

②	(補足説明：少子高齢化の解決法は私たちが枕崎に残って生活することだが、それもなかなか叶わない。いろんな支援に若者たちが共感し、家族とともに枕崎に住みたいと思えるのが理想的だと考える) ー以下、この質問の中で他にも意見交換した事ー ・高齢者へ何か支援することはあるのか	てきても近隣市に居住し仕事は枕崎に通ってくるという話も聞く。そのような若い方たちが枕崎に残ってくれるような政策を充実していかなければならない。 ○若者の定住対策として、地元企業への就職に対し、漁業・水産加工業者に従事する方への支援制度があるが、他の業種についても支援制度を拡充する必要があると考える。 ○学校給食費の無償化や0歳から2歳児までの保育料の無償化、子どもの遊ぶ場の提供など、安心して子育てができる環境づくりが大事。 ○教育の充実と学びの場の提供や、社会との繋がりを感じる機会の提供 イベントやお祭り、社会貢献事業に積極的に参加し社会経験を積むことが大事。 若い時は、失敗を恐れず何事にもチャレンジするのが大事。 ○介護事業者の方からも人手不足が深刻な問題と聞いている。高齢者のお世話をする介護職の人材不足を解消していくのも今後の課題だと考える。 ○介護保険で、未だ一部償還払いの対象事業がある。高齢者の負担を減らし、安心して介護サービスを受けられるよう、これから議会が訴えていく必要がある。
---	---	---

	若者たちは何を希望するのか。(市議会議員への意見、要望)
②	・高齢者の専用施設や、娯楽施設が増えたら住みやすい町になる。

②	・子育てについて相談できる場所がほしい。 ・高齢者が増えているので、バリアフリー化や交流の場を増やしてほしい。 ・魚が枕崎の魅力なので、魚の養殖などもっと進めてほしい。 ・地酒と地域の食を組み合わせたスタンプラリー形式の「パ酒ポート」を使って、焼酎や鰹節などの地場産品をPRすることにより、観光客誘致につながっていくのではないかな。 ・高齢者の方が中心となって新たな特産品を開発することにより収入にもなり、コミュニティができて町の活気に繋がる。その特産品を若い人たちがサポートしてネットで販売したらよい。 ・プロ野球の合宿などがあれば、飲食店や宿泊施設の売上げに貢献できる。 ・枕崎に住む外国の方が過ごしやすいようにサポートしていただきたい。 ・観光客誘致のために枕崎の魅力を発信できる商業施設があったらいい。 ・きばらん海で有名人を呼んだり、イベントを開催し集客を増やす。 ・きばらん海や各種イベント等で、高校生のステージを設けてほしい。そのことにより地域貢献もできると思う。 ・枕崎にはアーティストも多数いらっしゃるので、海でライブを行い特産品を売ることによって経済効果も生まれ、枕崎を知ってもらうこともできる。 ・枕崎に服屋を増やしてほしい。 ・鹿児島市内へ出かける際に遊ぶ時間が限られるので、バスの本数を増やしてほしい。 ・外食に行くにもいつも決まったところにしか行かないので、学生にも気軽に行ける飲食店があればいいと思う。 ・若い人向けにアスレチックなどの施設を作り、イベントなどを開催し自然を活かしながら運営出来ればいいなと思う。
---	---

〈テーマ2：現状を把握した上で20年先を見据えた市政のあり方〉

番号	参加者の意見・要望	議会としての回答
①	人口約1万9,000人、高齢化率40%以上という現実をふまえつつ、②長期的な視点における市政をどのようにとらえるか。 また、若者たちは市政をどのようにとらえるか意見を述べたい。 補足説明 市議会提供資料を見ると、このままだと単純計算で20年後には枕崎の人口が約6,000人減り、人口が約1万2,000人になり、うち半分の6,000人が	【回答1】① 人口約1万9,000人、高齢化率40%以上の現実について説明。 枕崎市は昭和60年頃までは3万人を維持していたが、それから急激に人口が減ってきた。 社人研（国立社会保障人口問題研究所）推計データによると、枕崎市は令和27年の人口推計が1万1,610人となっている。 昭和60年には、生産年齢人口と言わ

高齢者になってしまう。 この状況を改善するためには、多くの人が枕崎に住みつくようにすることが大事で、そのための政策が必要。 一方、政策を行うためにはお金が必要。今の枕崎市を活性化させ、枕崎市に入る税収を上げる必要がある。税収が上がれば、人口増加のための政策も充実させることができると考えている。 今回は、人口増加策をとるための財源を増やすために、現状を踏まえ、枕崎市をどのように活性化させるかについて意見交換願いたい。	れる15歳から64歳の人口が2万人近かったが、推計では、令和27年には高齢者の人口が5,800人、生産年齢人口が4,800人ということで逆転をしまい、老齢人口比率が50%となってしまうという。 どのようにしてこの生産年齢人口を上げるかというのが、目下の市における課題であり、市の問題意識はそこにあると考えてもらいたい。 ② 20年先を見据え長期的視点における姿勢をどのように捉えるかについて説明 人口増減に係る要素、生まれることによる増加、死亡による減少、移動による増減の三要素を踏まえて出されたグラフを基に説明。現状のままでの推計では令和27年の人口が1万1,610人になる。 シミュレーション1は、枕崎の出生率が人口が維持できるといわれる出生率2.0になった場合のグラフだが、出生率が上がっただけでは現状とほぼ同じぐらいのペースで減っていくことを表している。 1番大切なのは移動平均がとれていること。 シミュレーション2のように、出生率が向上し、移動平均がプラスマイナスゼロというような状況になると、人口がある程度維持されることを表している。 市の長期的取組は、出生率の向上、移動平均がとれるような街づくりをするため、産業競争力の向上を目指し、地場産業を強化し、得意分野をもっともっと伸ばしていくことである。 皆さんが就職するときに、もっといい待遇で仕事ができるよう、もっと誇れる仕事となるよう、ひいては子供を産
---	---

①	出生率を上げるために、焼酎や水産物を生かすとあったが、今ある特産品では若者は集まらないと思う。 新しく枕崎市で特産品などをつくることは考えているか。 ー以下、この質問の中で他にも意見交換した事ー これまで特産品を使ったものを私たち地元民が食することがあまり無く、特産品についても分からなかった。枕崎内で、何か特産品を使った食べ物を販売したり、フェスティバルとして提供するのでもいいのでは。	み育てる若い世代の将来に対する経済不安、そういったところを解消できるよう、皆さんの人生設計に対する不安をなくすことを考え対応している。 【回答2】 枕崎は、自然が豊か・食の宝庫・基幹産業が確立しているなどの魅力が豊富。それを活用して関係人口を増やし、令和27年度に訪れる人口形態で社会・経済活動が賄えるようなまちづくりが必要である。 新しく特産品を作るというのは、なかなか難しいところもある。高校生の皆さんには凄さが感じられないかもしれないが、焼酎・鯉節のように、枕崎に全国屈指の特産品が二つもあるのは非常にまれな状況。そのまれな状況をもっとブラッシュアップして良くしていくと、もっと住みよいまち、もっと売れるまちになる。そういったところを目指していくのがいいのではと考えている。 【回答1】 なかなか、かつお節でだしをとって料理するということがないというのが現状ではないか。 みんなで特産品を食べようよ。というPRもいい提案だと思う。いろいろ提案できるところは提案していきたい。 【回答2】 新しい産業はどんどん考えていく必要がある。先人の方々が残してくださった鹿籠豚もある。しかし市の自主財源にもなるふるさと納税として生かすことができていない。自主財源が大きくなることで、お年寄りや皆さんにもいろんなことができることになる。
----------	--	--

①	枕崎の鰹節は海外にも進出するなど、世界でも通用するブランドだと思う。 若い人はSNS見ている時間が長いので、もっとSNSを活用して広めたら良いのではないかな。 SNSで若い人や営業力のある人、海外の人に見てもらい、目に留まり、つながりを作れたら、事業につながり、枕崎をもっと盛り上げられるのではないかな。 鹿児島ユナイテッドFCの試合を見に行くと、スタジアム内には、喜入の街をPRしているブースがあり、喜入のいいところを感じ、実際に喜入を訪れたこともある。 同様に、白波スタジアムは枕崎の企業がスポンサーということなので、枕崎市もそこでPRをさせてもらえば、枕崎の魅力を感じた方々が枕崎へ観光に来る。訪れる人が増えるのではと思う。 今現在、枕崎の子供の人数から見て学校の数が少し多いと思うので、学校をまとめることでできる廃校を、校舎である良さを生かしながら、宿泊施設や旅行者向けの体験型の教室など、何か企画ができないものかなと思う。 去年11月頃に行われた再編・統廃合に	発信が弱いよという発言については、確かにその通りだと思う。 以前、枕JAZZという映像ですごく好評を博したが、あとが続いてない。 枕崎に魅力があれば、一旦は高校、就職等で、枕崎の外に出たとしても帰ってくる、あるいは域外の人が枕崎に魅力を感じて入ってきてくれる。 SNS等での発信についても、最近の議会において市当局に対し、現状発信力が弱いよね。これじゃいかんじゃないかという話をしたところもある。そこは正直、市のほうも弱いと認識しているところかなと思う。 SNS等をもっと攻めることで、枕崎をアピールするっていうのはおっしゃるとおり必要なところかなと思う。 枕崎が特産をPRしてないということはないが、そういう若者の目につく、若者の目についてもらえるようなところに出ていっていると言われると、そこはどうなのかなと考えさせられた。 もっと若い人たちに、枕崎っていいねっていうふうに思ってもらうために、若い人たちが行く場所・イベントに向けて、枕崎の物産展とかをぶつけていく、そこを狙っていくっていうことも必要なことではないかなと考えさせられた。 現状、各小学校は必要だと思うが、中学校は早いところ合併したらどうかと、以前の議会でも話をしたところがあった。 なかなかすぐに合併というところまでは向かっていないところだが、将来的に人が少なくなれば、そこは自然と
----------	--	---

①	関するアンケートでは、すぐに移行というものが34%。現状維持というものが57%という結果だったことを踏まえ、早めに行動を起こし、再編をすすめていったほうがいいのではないかと思います。	考えないといけないことではある。と市長の発言もあった。 そういった流れで、早晩、中学校のほうからまとまっていくと考えているところである。
---	--	--